



ぱれっと

Palette

「ありがとう 伝えて広がる 協同の和」

11

2019 November
vol.231

ぱれっと

ありがとう
伝えて広がる
協同の和

11 vol.231
2019 November

URL <http://www.ja-okayama.or.jp/>

発行／岡山市農業協同組合 〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1
発行人／太田 誠一 編集／総務部総務課 TEL086(225)9846



JA岡山は、組合員募集中です！

耕そう、大地と地域の未来。

特集

「産地・ブランドを守るために」

—— 地域団体商標制度のススメ ——

農を担う 米麦農家

岸本 佳明さん

藤田地区……………10ページ

Recipe

旬のレシピ紹介



スペアリブの煮込み

【材料：2人分】

スペアリブ…………… 4～5本
皮付きショウガ…………… 1片
ゴボウ…………… 1本
下ゆでした小松菜…………… 1束
塩…………… 適宜

煮汁

水…………… 900ml
しょうゆ…………… 200ml
みりん…………… 100ml
料理酒…………… 100ml
砂糖…………… 100g

【作り方】

1. スペアリブに当て塩をしてビニール袋に入れ1晩置く。
2. 鍋に1を入れ水から軟らかくなるまで下ゆでする。
3. 別の鍋に煮汁を合わせ、2と薄切りにした皮付きショウガ、食べやすい長さに切ったゴボウを入れ、強火で15分程度煮る。
4. 器にスペアリブ、ゴボウ、食べやすい大きさに切った小松菜を盛り付け、煮汁を回し掛け出来上がり。

レシピ提供／永井智一（ながいともかず）
茨城県笠間市にある「キッチン晴人（ハレジン）」
オーナーシェフ

Aglogram

あぐろ
グラム

編集後記

秋の味覚を求めて

今回のあぐろグラムは、岡山市中区沢田地区の百間川河川敷で11月17日に開催される沢田柿まつりを紹介します。

沢田地区の特産品である富有柿をより多くの消費者に親しんでもらうことが目的のイベントです。会場では、柿にちなんだイベントとして、かごに盛った柿の個数当てクイズや、柿の皮をむいて長さを競う「柿の皮むき競争」が行われるほか、贈答用の箱や、家庭向けの袋詰めなどが市価より安く販売されていることもあり、用意される富有柿は袋詰めのものから次々と完売するほどの人気です。

秋の行楽シーズンにぜひお出かけしてはいかがでしょうか。



※「あぐろグラム」とは「アグリ（農業）」と「ログ（記録）」、写真専用投稿ソーシャルネットワークサービス「インスタグラム」をかけた造語です。

編集担当 荻野 透

◆地域団体商標を取得する3つのメリット

その1 法的効果

◆他者への権利行使

他者が不正に地域団体商標である名称を商標権に抵触する範囲で使用、又は使用する恐れがある場合、**民事・刑事の両面から対抗することができます。**

◆ライセンス契約

商標権(財産権)は、他者に商標の使用を許諾することができます。

その2 差別化効果

◆取引信用度・商品・サービス訴求力の増大

名称が商標権で保護されていることで、**取引の際の信用力増加**、また、国にお墨付きをもらった商標という点をアピールすることで**商品・サービスの訴求力の増大**につなげることができます。

その3 その他の効果

◆組織強化・ブランドに対する自負の形成

商標をその団体に独占的に使用することにより、組合員の増加や、ブランドに対する自負が形成されます。

地域団体商標制度とは

◆制度の概要

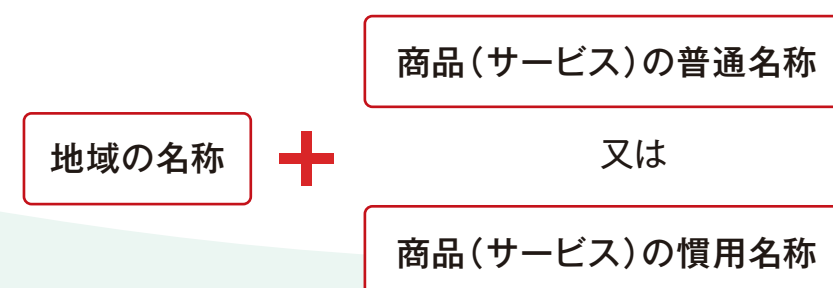
地域の産品等について、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として平成18年4月1日に導入されました。「地域ブランド」として用いられることが多い地域の名称及び商品(サービス)の名称等からなる文字商標について、登録要件を緩和する制度です。

※ 通常、「地域名+商品(サービス)名」の組み合わせからなる文字商標は、「全国的に周知」となっていなければ登録できません。

◆商標の構成

地域団体商標として登録できるのは、以下の構成からなるものです。

「地域の名称」と「商品(サービス)名」等の
組み合わせからなること



※ 地域の名称には、現在の行政区画名ばかりでなく旧地名、旧国名、河川名、山岳名、海域名なども含まれます。

※ 産地等を表示する際に付される文字として慣用されている文字(本場、特産、名産等)も組み合わせることができます。

ポイント

- ◆商標が**文字のみ**であること
- ◆商標の構成文字が図案化されていないこと
- ◆「地域の名称」と「商品名」等の組み合わせであること
- ◆商標全体が普通名称でないこと

例) いよかん、さつまいも 等

産地・ブランドを守るために
— 地域団体商標制度のススメ —
地域団体商標制度は、地域ブランドを適切に保護することにより、信用力の維持による競争力の強化と地域経済の活性化を支援することを目的とし、平成18年4月に導入されました。今月号では管内で生産振興の1つの取り組みとして部会で取得した事例とともに地域団体商標制度についてご紹介します。



通常の商標との違い

商標とは、事業者が、自己（自社）の取り扱う商品・サービス（他人（他社）のものとは区別するために使用するマーク（識別標識）です。

私たちは、商品を購入したりサービスを利用したりするとき、企業のマークや商品・サービスのネーミングである「商標」を1つの目印として選んでいます。そして、事業者が営業努力によって商品やサービスに対する消費者の信用を積み重ねることにより、商標に「信頼」がかけられる「安心して買える」といったブランドイメージがついていきます。商標は、「もの言わぬセールスマン」と表現されることもあり、商品やサービスの顔として重要な役割を担っています。JA岡山では④のマークなどが該当します。

通常の商標出願では、産地や品質等の商品内容を表しているだけの商標は、原則として登録を受けることができず、例外の場合もごく一部に限られており、

それを立証するために労力や時間を要することになります。

これに対し、地域団体商標は、産地や品質等の商品内容を表しているだけの商標ですが、全国的に認知されるまでには至っていないまでも、一定の要件（例えば、一定の地理的範囲である程度有名になっていること）さえ満たせば商標登録を受けることができ、地域の産品等をより早い段階で権利侵害から守ることができるのが、大きなメリットです。

管内の地域団体商標の分布

岡山県では現在8品目が地域団体商標に登録されています。全国での登録数は約650で、品目別に見ると食品類が5割を占め、農畜産物が数多く登録されています。

全国的にもこの制度を利用して、地域ブランドを守り、持続させるための取り組みを行っています。

しかし地域ブランド構築の

ためには単に地域ブランドについて地域団体商標の商標登録を取得すればよいというものではありません。商標登録の取得は、産地の意識を高める1つの手だてとなりますが、継続して地域イメージを向上させ地域を活性化させるためには、需要者の信用や評価を得るために、商品の品質の基準・定義や商標の使用基準を明確にし確実に保持すること、つまり徹底した品質管理と商標管理が必要になってきます。



地域団体商標の取得事例

JA岡山管内では2つの部会と協力し、地産地消運動の向上とブランド力の保持を目指して地域団体商標を取得しています。④藤田レタス部会は平成26年8月に、④牧石ねぎ部会は平成31年に取得しました。

独自の栽培管理と徹底した品質管理によって市場からの高評価を受けていた④藤田レタス部会は、産地規模の維持にむけて申請を行い、JA岡山では初となる

地域団体商標を取得しました。団体商標取得に先駆けて、地元小売店とのコラボ商品開発しPRするなど積極的なメディア露出を行い、新規栽培者の獲得にもつながっています。

品質と優れた味が高く評価されてきた④牧石ねぎ部会では、ブランドが確立されたことによって、他産地との差別化や公的な認証によるブランド力の強化、生産者の自信と励み、研鑽意識の高揚に繋がると考え、地



平成26年8月に「藤田レタス」で地域団体商標に登録



地元小売店とのコラボ商品開発



平成31年3月に「牧石ねぎ」で地域団体商標に登録



イベントでの試食PR

登録後も県内イベントへのブース出店、主要取引先である岡山、阪神、東京市場でのPR、メディア取材対応など精力的に取り組む、ブランド力を保持しつつ新たな需要を生み出し、安定した生産量を維持することが可能となっています。

いずれの産地も取り組みの効果が現れており、他産地への拡散が期待されています。

JA岡山では持続可能な地域農業の発展にむけて今後も部会生産者の皆さまに協力いただき、商標・地域団体商標の取得にむけて取り組んでいく予定です。産地・ブランドを維持し、農業者の所得増大の1つの手だてとなる商標・地域団体商標の取得をはじめてみませんか。

詳細につきましては特許庁ホームページ「地域団体商標制度」をご覧ください。

予告

12月号からは特集 営農振興計画の達成にむけて「TAC指導員の課題実践計画」を掲載予定です。

野菜

収穫・乾燥・貯蔵は球が水にぬれないように



営農部指導課 中江 智子

タマネギ栽培で注意が必要な病気

今月号ではタマネギの病気について紹介します(資料1)。

●べと病

温暖で多湿な条件を好みます。感染のタイミングは2回あり、1回目は11月から12月です。前年べと病が発生したほ場での連作や、暖冬で雨が多いと感染しやすくなります。このタイミングで感染すると2月ごろから生育が遅れ始め、葉が黄化・湾曲します。このような株は早く抜き取ってほ場外で処分しましょう。またこのころからダコ

ニール1000などによる予防を始めます。
2回目は3月から春先にかけてです。気温が高くなり降雨も増えるので特に注意が必要です。葉に楕円形の黄色い病斑が見られたらランマンフロアブルやアミスター20フロアブルなどの治療効果が期待される薬で防除しましょう。

●灰色腐敗病(主に貯蔵中)

低温で多湿な条件を好みます。生育期には下葉から2〜3枚目の葉が黄化し、軟らかくなつて垂れ下がります。症状が進むと葉色が鮮肉色〜白色になり枯死します。貯蔵中には首〜肩部にかけて腐敗し、表面にネズミの糞のような黒色の菌核が発生することもあります。切断するとりん茎は黒ずんでおり、油が染み込んだように水浸状になっています。

●黒かび病(貯蔵中)

外皮をむくとりん茎に黒いすす状のかびが付いています。高湿や風通しが悪い条件を好み、貯蔵中に発生します。収穫時

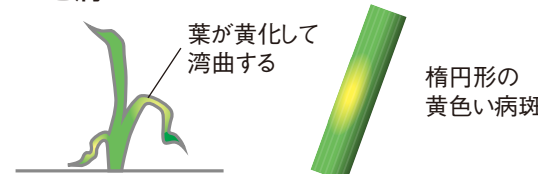
の切断面から感染することが多いとされています。

●貯蔵病害を防ぐために

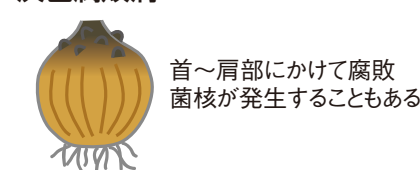
①罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場の外へ持ち出して処分します。多発した場合は次の年はなるべく別のほ場で栽培してください。
②薬剤防除は発病前(予防)に重点を置き、5月ごろから収穫まで貯蔵病害を重点に防除

資料1 タマネギの病気

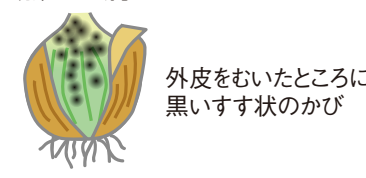
べと病



灰色腐敗病



黒かび病



資料2 タマネギに登録のある農薬一覧(例)

薬剤名	適用病害	希釈倍数	使用時期 (収穫〇〇日前まで)	使用回数
アミスター 20フロアブル	べと病、灰色腐敗病	2,000倍	前日	4回
ダコニール1000	べと病	1,000倍	7日	6回
ランマンフロアブル	べと病	2,000倍	7日	4回
ベンレート水和剤	黒かび病	2,000倍	前日	6回
	灰色腐敗病	2,000~3,000倍		

しましょう。ベンレート水和剤は収穫前日までの使用登録があります(資料2)。
③排水不良では発病しやすいので、ほ場の排水対策を行うとともに収穫・乾燥・貯蔵は球が水にぬれないようにしましょう。

花き

花色や開花時期など多種多様です



営農部指導課 中川 雄一

秋は各種球根や宿根草の植え付け時期

今回はクレマチス(つる性植物の女王といわれます)、花色や開花時期など多種多様で、センニンソウ、ハンシヨウヅル、カザグルマなど日本の野草もその原種です。また、県内には、珍しい切り花産地もあります。

●秋苗の植え付け

たくさん苗が販売される初夏に植え付けることが多いと思いますが、一般には休眠中の1〜3月が適期です。

まだ生育中の秋の植え付けは根を傷めないように丁寧に取り扱い扱わないといけません。寒くなる前にある程度根を張らせておくことができ、春からの生育がよりスムーズに進

みます。

地床植えには2〜3年生苗を使います。

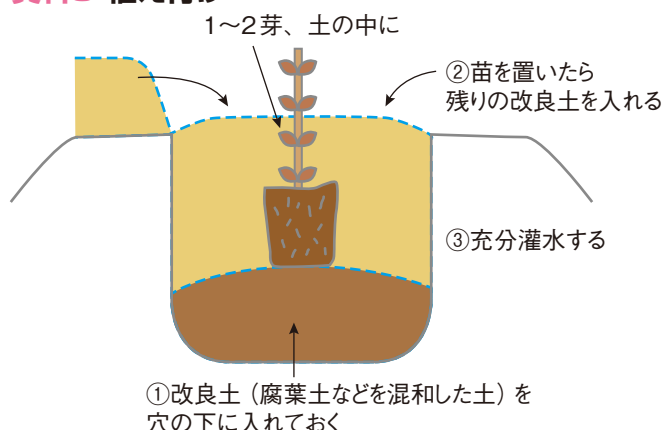
- ①土壌は肥沃で排水性と水保ちのバランスのとれたものを好むので、腐葉土等を30センチ程度の深さの土壌に混和し、植付場所の土づくり(特に排水対策は忘れずに)をしておきます。
- ②併せてマグアンプK等の緩効性化成肥料を約30g/株、よく混ぜておきましょう。
- ③株元の1〜2節が埋まる深さに植え付けると、節から根や芽が出て株がしっかりします(資料3)。

●株分け(11月下旬〜2月)

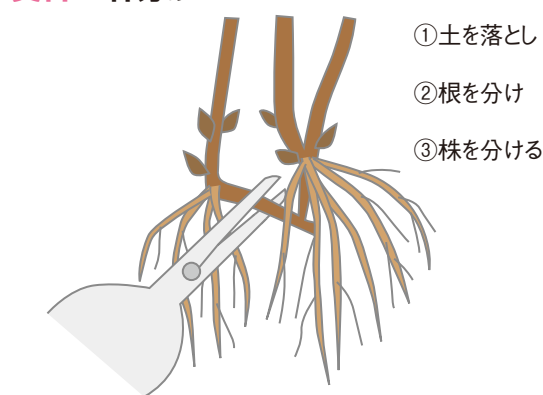
根を傷めやすいことからクレマチスの株分けは勧められていませんが、植えっぱなしで枯れた根が増加すること等による、株の衰弱や枯死に備えることができます。

できるだけ根を傷めないように心掛けること、分けやすい状態に芽の位置が分かれているものだけ分けること、株分け後は鉢でこまめに管理することがポイントです。

資料3 植え付け



資料4 株分け



- ①数節残して茎(地上部)を切り戻します。
- ②丁寧に掘り上げ、丁寧に根の土をふるい、最後に水道水で土を洗い落とし、さらに菜箸などで根を芽ごとに分けます。
- ③分けやすくなったら、つながっている部分を刃幅が狭いはさみで切り分けます。難しい場合は無理に分けないようにします。

④分けた株は小〜中粒赤玉土、小〜中粒鹿沼土、腐葉土を4〜3〜3程度に混合した用土等で鉢養成します(1〜2節は地中に)(資料4)。
訂正…10月号の資料5で「吸水根」となっていたのは「吸収根」の誤りです。訂正してお詫びいたします。

果樹

土壌の乾燥を防ぎ生育初期の雑草を防ぎましょう



営農部指導課
小野 智寛

果樹苗木植え付け

冬季から管理、対策を始めることで品質・収量低下等を防止することができます。
基肥や堆肥の施用は早めに行い、落葉の処理や施設の点検整備などもこの時期に行いましょう。

●苗木の準備

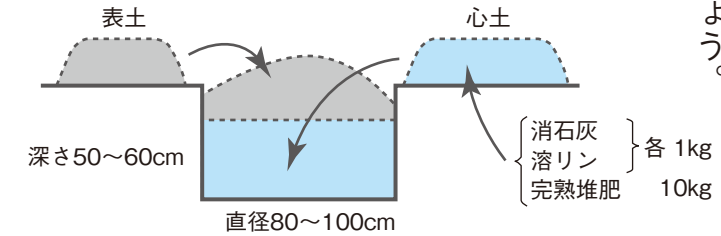
植穴は、肥料等をなじませるため、定植予定の1〜2カ月程度前までに準備しておきます。
苗木1本につき、直径80〜100^{センチ}、深さ50〜60^{センチ}位の穴を掘ることになります。しかし、難しい場合は、深さ30^{センチ}程度は掘るようにしましょう。掘った穴には石灰類（消石灰・苦土石灰・苦土セルカ等）、リン酸類（溶リン・リンスター等）各1^{きلو}と完熟堆肥

（よく発酵したもの）10^{きلو}をよく混和して埋め戻し、踏み固めた後、表土を20^{センチ}程度盛り上げるようにしておきます（資料5）。ただし、ブルーベリーの場合は、酸性土壌を好むため石灰の代わりにピートモスを施用しましょう。

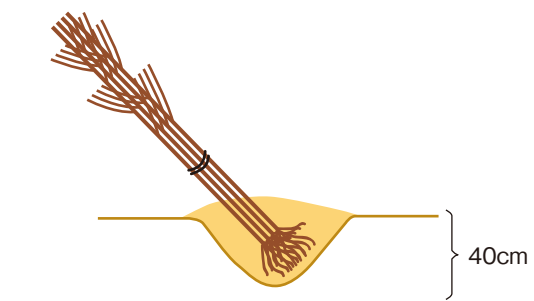
●果樹苗木の選択

植える苗木の種類によっては栽培に棚が必要であったり、1本だけでは実がならないため受粉樹が必要なものもあります。定植前によく確認しましょう。

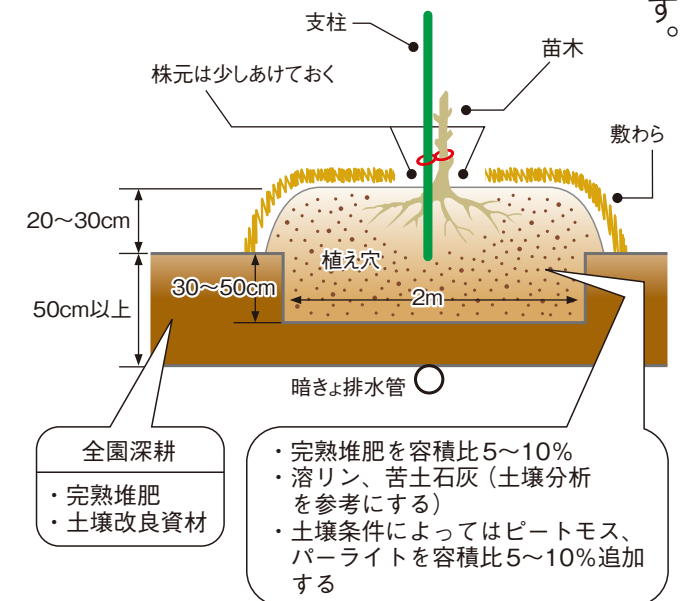
資料5 苗床の準備



資料6 苗木の仮植え



資料7 桃苗木の植え付け（例）



- ・接ぎ木部を地上に出し、深植えにならないように注意する
- ・切り接ぎ苗は、接ぎ木部の30cm程度上で切り返す

●苗木の入手

苗木は幹が太く、細根が多く充実したものを選び、品種の明らかな苗を入手しましょう。
苗木は根が乾燥しやすく傷みやすいので、入手後すぐに水につけて吸水させてください。
また、植付ほ場の準備ができていない場合は、1日吸水させてから仮植えを行いましょう（資料6）。仮植え場所では排水のよい場所で、施肥を行っていない砂壤土が管理には適しています。仮植え時にもしっかりと灌水し、定植が翌春になる場合は乾燥と凍害防止の為、株もとをわらで覆います。降雨不足の場合は適宜灌水を行います。

●植え付け

植え付けの位置に支柱を立て、根が交差しないよう四方に広げ、根の先端が下方になるように配置し、細かい土で軽く覆土し、直ちに十分灌水します。その後、覆土を十分にを行います。その際、台木との接ぎ木部以上は覆土しないよう注意しましょう。
植え付け後、株元に稲わらなどでマルチし、土壌の乾燥を防ぐとともに、生育初期の雑草を防ぎましょう（資料7）。
切り接ぎ苗は接ぎ木部から30^{センチ}程度のところで切り返し、支柱に誘引します。